

I 調査結果の概要

1 水産物の用途別出荷量の動向（31漁港、19品目）

令和2年の水産物の出荷量（31漁港、19品目）は112万5,647 tとなった。

用途別にみると、養殖用又は漁業用餌料向けは30万5,413 t（出荷量割合27.1%）、生鮮食用向けは30万63 t（同26.7%）となった。（図1）

図1 用途別出荷量割合（31漁港、19品目）

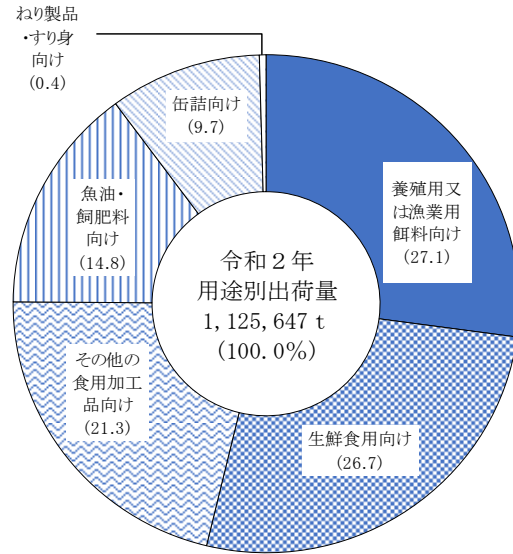


表 用途別出荷量及び出荷量割合（31漁港、19品目）（出荷量の上位品目）

品目	計	生鮮食用向け	ねり製品・すり身向け	缶詰向け	その他の食用加工品向け	魚油・飼肥料向け	養殖用又は漁業用餌料向け
出荷量 (t)							
合計	1,125,647	300,063	4,787	109,206	240,144	166,034	305,413
生鮮品計	931,211	207,046	4,787	97,789	150,142	166,034	305,413
うちまいわし	436,632	70,657	2,412	18,069	12,867	162,220	170,407
さば類	261,892	31,153	502	76,659	45,324	1,423	106,831
まあじ	69,812	27,264	582	-	20,380	581	21,005
ぶり類	37,677	16,868	-	-	20,808	-	1
たら	28,822	9,397	1,291	-	18,134	-	-
冷凍品計	194,436	93,017	-	11,417	90,002	-	-
うちかつお	132,861	38,695	-	8,814	85,352	-	-
きはだ	41,150	38,722	-	2,185	243	-	-
出荷量割合 (%)							
合計	100.0	26.7	0.4	9.7	21.3	14.8	27.1
生鮮品計	100.0	22.2	0.5	10.5	16.1	17.8	32.8
うちまいわし	100.0	16.2	0.6	4.1	2.9	37.2	39.0
さば類	100.0	11.9	0.2	29.3	17.3	0.5	40.8
まあじ	100.0	39.1	0.8	-	29.2	0.8	30.1
ぶり類	100.0	44.8	-	-	55.2	-	0.0
たら	100.0	32.6	4.5	-	62.9	-	-
冷凍品計	100.0	47.8	-	5.9	46.3	-	-
うちかつお	100.0	29.1	-	6.6	64.2	-	-
きはだ	100.0	94.1	-	5.3	0.6	-	-

注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため計と内訳の計が一致しない場合がある（以下同じ。）。

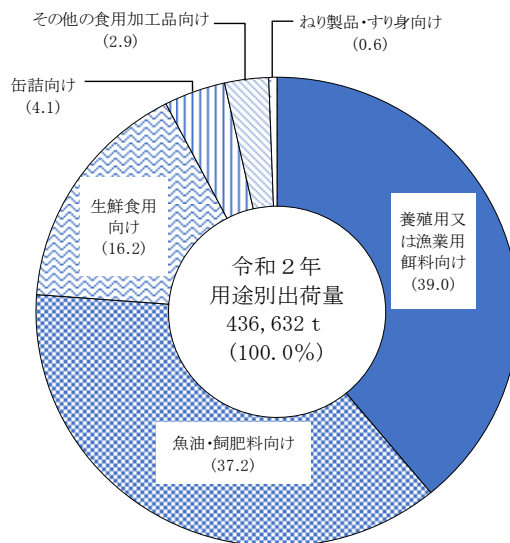
2 主要品目の動向（出荷量の上位品目）

(1) 生鮮品

ア まいわし

用途別にみた出荷量割合は、養殖用又は漁業用餌料向けが39.0%と最も高く、次いで魚油・飼肥料向けが37.2%となった（図2）。

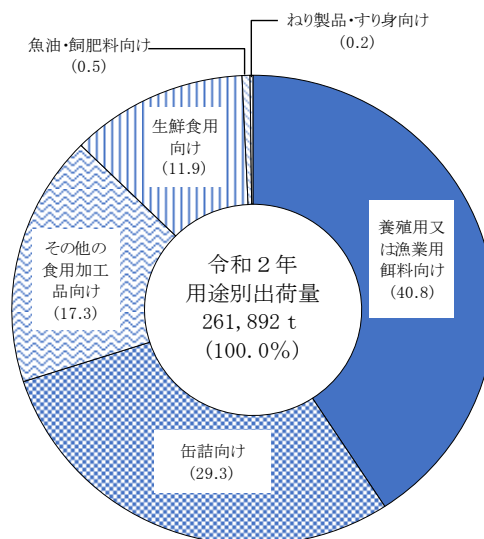
図2 まいわしの用途別出荷量割合



イ さば類

用途別にみた出荷量割合は、養殖用又は漁業用餌料向けが40.8%と最も高く、次いで缶詰向けが29.3%となった（図3）。

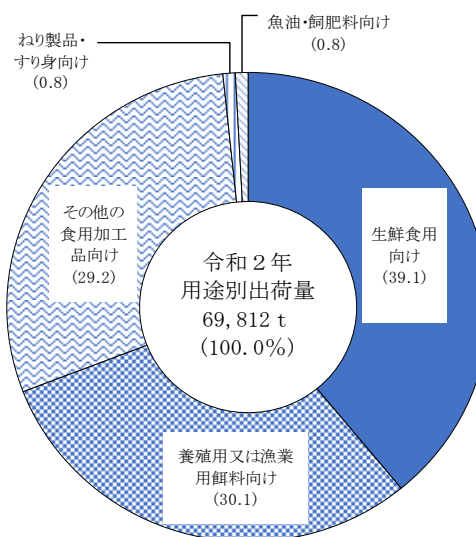
図3 さば類の用途別出荷量割合



ウ まあじ

用途別にみた出荷量割合は、生鮮食用向けが39.1%と最も高く、次いで養殖用又は漁業用餌料向けが30.1%となった（図4）。

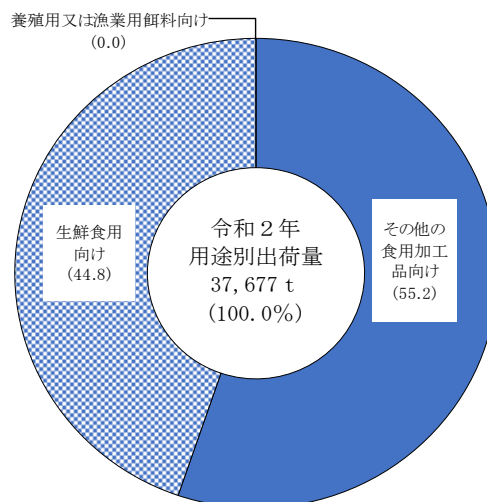
図4 まあじの用途別出荷量割合



エ ぶり類

用途別にみた出荷量割合は、その他の食用加工品向けが55.2%と最も高く、次いで生鮮食用向けが44.8%となった(図5)。

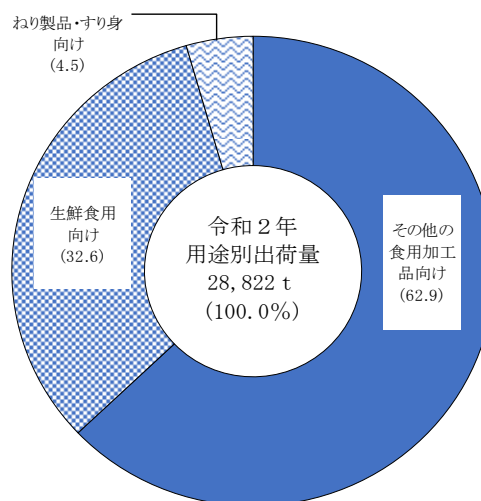
図5 ぶり類の用途別出荷量割合



オ たら

用途別にみた出荷量割合は、その他の食用加工品向けが62.9%と最も高く、次いで生鮮食用向けが32.6%となった(図6)。

図6 たらの用途別出荷量割合

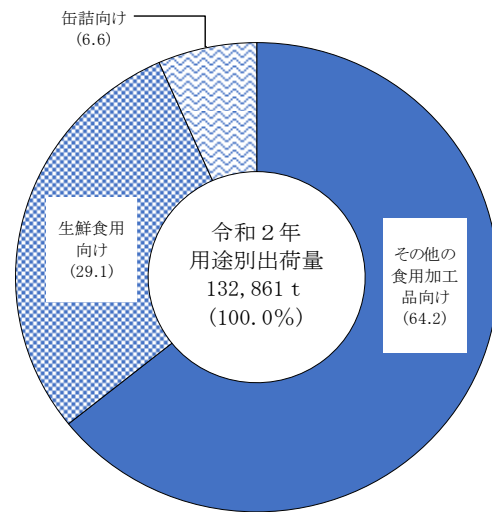


(2) 冷凍品

ア かつお

用途別にみた出荷量割合は、その他の食用加工品向けが64.2%と最も高く、次いで生鮮食用向けが29.1%となった(図7)。

図7 かつおの用途別出荷量割合



イ きはだ

用途別にみた出荷量割合は、生鮮食用向けが94.1%と最も高く、次いで缶詰向けが5.3%となった(図8)。

図8 きはだの用途別出荷量割合

